

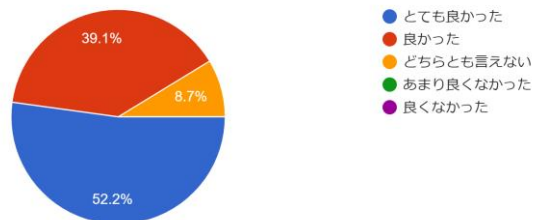
令和5年度第4回事例検討会（令和6年1月19日開催）

テーマ:身寄りのない方への終末期までの対応～認知症の方の在宅生活を継続するために～

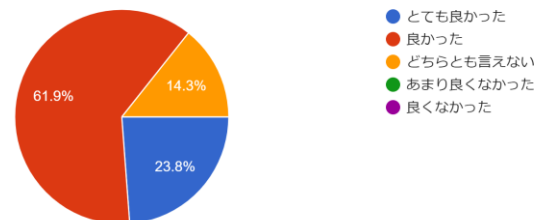
参加者41名（会場20名, zoom21名） アンケート回答率60%

参加者内訳（医師/2名、歯科医師/1名、看護師/9名、薬剤師/2名、主任CM・CM/19名、相談員4名、救命士/1名、その他/3名）

事例検討会のテーマについて
23件の回答



検討方法（グループワーク）について
21件の回答



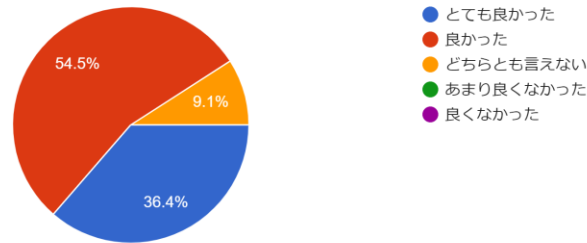
【上記回答についてご意見をお聞かせください（回答より主なものを抜粋）】

- 独居で暮らす認知症の方は多いので、多角的な関わり方は勉強になりました。
- 身寄りのない方の窓口が生活支援課になる知らなかったので参加してよかったです。またこれから独居、身寄りなしの方が増えていく事が予測されますので、いい勉強になりました。
- 身寄りのない方はキーパーソンがおらず、ケアマネジャーも対応に困る。身近な例としてふさわしい。
- 玉城先生の、精神科から見た意見が、参考になりました
- 身寄りのない方への支援はどのような相談先へどのタイミングで相談したら良いのか、不安があった。相談先を知ることができよかった。
- 時間の都合もあり仕方がないと思いますが、今回の事例からは「その方らしさ...」があまり読み取れなかった。支援者がどう悩み、本人に寄り添って看取りまでの時間を過ごしたのか、などの話を期待していました。Zoomでの参加だったので音声途切れてしまうことがあった。
- 当院でも身寄りのない患者様を対応することもあるので、普段の業務とも重なった。

【上記回答についてご意見をお聞かせください（回答より主なものを抜粋）】

- 複数の職種が5人程度の中で、ちょうどよい検討時間でもありました。
- 職種によっても気付きの視点が違うなあと思いました。多職種で連携し色々な意見交流をする事が大事だと思いました。
- どうしてもZoomだと意見をと言われても、順番になってしまいました
- 今回zoom参加だった。一人一人のzoomの場所が確保できなかったのも、聞き取れなかった
- グループにいろいろな職種の方が居ていろいろな意見が聞けました
- 地域で支援を展開する方々とコミュニケーションをとることは、病院のSWとしてとても良い機会になった。
- 同じ患者さんのことを考え目標は同じだとしても職種によって重点的に考える点異なることを学んだ。
- 対面のグループワークは話やすかった

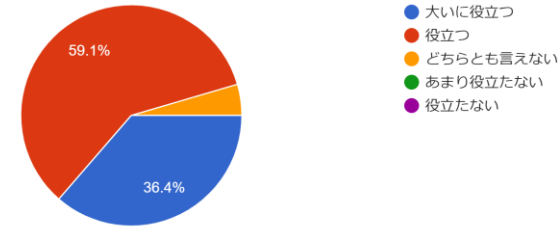
玉城嘉和医師への質問コーナーはどうでしたか
22件の回答



【上記回答についてご意見をお聞かせください（回答より主なものを抜粋）】

- 専門医からの経験談は地域医療を知る上でも貴重な時間でした。
- 困ったときは玉城先生に、と思っているので、ご意見を聞かせていただいてよかったです
- レカマネブについて私も利用者家族から質問された事があり、料金の事や治療方法などがわかりよかったです。サービス拒否が強い独居の方の支援についてももう少し聞きたかったです。
- 薬の話が専門的すぎて難しかった
- レカマネブは参考になりました
- とても丁寧に回答してくださったので、良かったです。
- ご本人の拒否があろうとも、生命に危険がある状況では、認知専門医に診断、服薬コントロールして、積極的介入が必要
- 医師はこのような考え、判断をするのだということがわかり参考になりました。

この事例検討会は、日頃の業務に役立つ内容でしたか。
22件の回答



【今後の事例検討会、研修で取り上げてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。（回答より主なものを抜粋）】

- 精神疾患症状のあるご利用者に対する在宅でのチームアプローチ方法
- パワーハラスメント、セクハラなどをする利用者、家族への対応方法に苦慮しています。そのような方の対応方法だったり、事例検討をしてほしいです。
- 成年後見制度について
- 多問題事例（要介護状態の高齢者と同居の知的障害者の息子）の対応の仕方
- 災害時の支援、防災に関わる多職種協働等

皆様ご協力ありがとうございました。